

更生保護制度

問題 147 事例を読んで、この場合の仮釈放の手続きに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

裁判所の判決で3年の懲役刑を言い渡されて、刑事施設に収容されていたJさんは、仮釈放の審理の対象となった。

- 1 仮釈放の要件として、刑の執行から最短でも2年を経過している必要がある。
- 2 仮釈放の要件として、改悛^{かいしゆん}の状があることがある。
- 3 仮釈放を許す処分を決定するのは、地方裁判所の裁判官である。
- 4 仮釈放の対象となるのは、初めて刑事施設に入った者に限られる。
- 5 仮釈放の期間中、Jさんの希望により、保護観察が付される。

問題 148 保護司に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 法務大臣から委嘱される。
- 2 検察官の指揮監督を受ける。
- 3 保護観察における指導監督の権限はない。
- 4 担当する事件内容によっては給与が支給される。
- 5 刑事施設収容中の者との面会は禁じられている。

問題 149 事例を読んで、社会復帰調整官の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

精神保健観察中のKさんは、地域生活を送っている中で家族関係が悪化し、仕事にも行けなくなってきた。保護観察所は、関係機関の担当者とともにケア会議を開催し、Kさんの状態の情報共有と今後の処遇について話し合った。

- 1 Kさんが継続的に医療を受けるよう、保護司に指導を指示する。
- 2 指定通院医療機関への通院状況を確認する。
- 3 精神保健観察の期間延長を決定する。
- 4 指定入院医療機関に入院させることを決定する。
- 5 今回作成する処遇の実施計画の内容をKさんに秘匿することを決定する。

問題 150 刑の一部の執行猶予制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 本制度の導入により、検察官による起訴猶予の処分は廃止された。
- 2 本制度の導入により、執行する刑の全てを猶予する制度は廃止された。
- 3 本制度の導入により、釈放後の生活環境の調整をする制度は廃止された。
- 4 本制度の刑の一部の執行猶予期間は、刑期とともに判決時に言い渡される。
- 5 本制度において、保護観察が付されることはない。